



「ユニリザーバーDL-2T “協同油脂”

—自動給油機 LUBMAX のための集中給油用グリース—

1. 圧送性・低温性に優れた極圧タイプのグリース
2. LUBMAX用グリース GKL-2-50
3. 増ちょう剤：リチウム石けん
4. 使用温度範囲：-30°～130℃

荷姿：500cc*1本～ 500cc*12本



「磐高物語」 18

私たち高校生のこの旅が、どれほど無知で無謀なものであったかを旅の終わりに思い知らされることになる。

山登りの経験もない、これほど長期間歩いたこともない、キャンプの設営もしたことはないし勿論飯盒炊爨などの経験もゼロ。こんな未経験の若者が、五万分の一の地図とコンパスを頼りに六日間も山の中を歩き続けた。

この事実は、やはり「若さゆえ」という言葉に置き換えられるのだろうか。

『ターちゃん、夏休み一緒に尾瀬に行かないか』と、リーダーの山岸さんから誘われて、何の考えもなしに翌日には

『うん、いいよ』と、応えていたわたし。これが始まりだった。

自然の偉大さそして尾瀬の美しさ、仲間という名の絆、やり遂げるという精神力、それはこの六日間の冒険旅行で得た貴重な体験と時間の賜物だった。

『旅の終わりに』

私たちは、日光から東北本線の小山駅で乗り換え水戸線から常磐線経由でわが町に向かった。

わたしは、水戸線の下館駅で途中下車をした。父の姉に当たる伯母と従姉妹が住む町で、小学生の頃は妹と一緒に夏休みや冬休みにはよく預けられていた。

わたしを見るなり伯母達は、『ターボ、どうしたんだいその格好は。まるで浮浪児じゃないか』と、びつくりしたように叫んだ。

『いま、尾瀬の帰りだよ。一週間ろく（真面）な物食ってねえし、腹痛くてしょうがねんだ』玄関に上がるなり便所に駆け込んだ。

それから三日間旅の疲れと栄養不足がたたったのか、下痢と発熱で動くことが出来なかった。伯母の家でゆっくり静養をし、やがて体調も戻って家に帰った。

山岸さんと林さんは大丈夫だったが、高瀬さんは極度の疲労で四十度近い熱が何日も続き、休ませざるを得ず一年送られてしまった。旅は、入念な計画からですね。

☆ あとがき ☆



伊豆箱根で1泊2日のラージボール卓球の合宿があるというので、観光を兼ねて妻と二人連泊で申し込んでおいた。合宿はとても楽しかった。

最上階のレストランから見る駿河湾の夜景は、キラキラ輝き皆さんと飲み交わすビールの味も最高でした。それに何ととっても翌朝に見た雲ひとつない富士山。富士山を前にラジオ体操が出来たこと、これに勝るものなし。